

アトピー性皮膚炎



かゆみのある湿疹を慢性的にくり返す皮膚の病気で、10%以上の子供たちが持っていると言われていています。この病気の人には皮膚の“バリア機能”が低下しており、治療には適切なスキンケアと外用薬の塗布が重要です。さらにこの病気はアレルギー体質の人に多く、とくに乳幼児のアトピー性皮膚炎にはしばしば食物アレルギーが関与しています。

《**症状**》かゆいこと、慢性的に繰り返すこと、出やすい体の部分があること、が大きな特徴です。典型的な経過は、①生後 1〜2 ヶ月から口の周りや頬に赤みのある湿疹が現れ、やがてジクジクするようになり、②次に体や手足（とくに首まわりや、ひざ・ひじの裏など、シワのある屈曲部分）に出るようになる、③幼小児期になると、全体に皮膚の乾燥が目立ち、毛穴の部分が鳥肌のようにめだつ、④小学校高学年以降は顔面を含む上半身の湿疹が目立つようになる、というものです。

《**治療**》治療の三本柱は、(1)スキンケア、(2)薬物療法、(3)原因や悪化因子の除去、です。

(1)スキンケア：入浴やシャワー浴で皮膚を清潔に保ってください、石けんを十分に泡立て両手のひらで洗顔をする要領でしっかり洗ってあげてください。

(2)薬物療法：①保湿剤によって皮膚を乾燥から守ること、②すでに起きている湿疹に対してはステロイド軟膏でしっかり治療することが重要です。

(3)原因や悪化因子の除去：小児の場合、食物アレルギーの原因を食事から除去しなければならないことがあります、自己流で行うと成長に悪影響を及ぼすことがあります。医師の診察を受け、医師や栄養士の指導を受けましょう。爪を伸ばさないこと、衣類や寝具を選ぶことなども重要です。

《**ステロイド薬の副作用についての誤解**》ステロイド外用薬には時に皮膚の副作用（皮膚の感染症、皮膚萎縮、ニキビ、多毛、など）が起こることがあります。しかし、副作用をおそれるあまり治療が中途半端になっては、長い目で見るとかえって薬の使用量が増えてしまうことになりかねません。薬の使い方は医師の指示を守り、副作用が疑われる場合は再度相談されてください。